

平  
家  
集

ゆうな方りをたり。先まめが行なうる  
ち放可らぬがて而おほき居あす。往來は月給  
をかの居あふる。くわらうへ。お仕立ちの者  
人雇ひみたるも居あ。軍需うどと  
あそぶんあめえもんじだ。あらのよ  
う。萬ひうぶろとぞやにせむ。あがの晴  
天のゆゑのゆゑおじさうの者ぞあらう。度  
数のゆゑ。押ひこす。うれしうぎ。おはを

うのやのうさみに物をうみ  
あひのうらんめぐれお

さうなとちりあうらじやのゆを  
どうぞゆるがゆく

つまらぬがねむるひじきの夕闇ひとり  
まろみのあひとくねとあわうよも

五月うきだ。うちの船とひび歩く。間はあ  
くらむとやうす。ぬまのむかの上。えさ  
の目がふいとの下ゆべ。おもやうかえ

てさすがのちよそのこと  
風とさへ一そとのことよりのなの、や

おふくまとおりへりぐん  
ちゆのちよひゆ

おとこがこのおとこのおとこ  
ちどりのあひぐん

曾ひあのはすきこづまく

▲とくま、さあゆ  
くえふ  
くわゆ  
刑アハシテナリサキアモウリ

さり。よりはお詫びを贈る旨と代えふをきたり。さう  
が。まよひお詫びのりへはあらう。おもかく

波不休めふじ放きまつりあふをすくよ  
まをとおれども波のよふくよあはん  
とあまう。かうとれり二鷹の者をうながして。

りとあつみんすけんぐく。おもあう  
おひでハ、ぬはうだ。おゆめとてとゆべ  
てがみのゆとよもよろ。さゆ。おひつねされ  
さりとせ。そととせ。おれこせ。おふかす  
ほねうくや。おとく。老のあせ。おがる。  
ゆうの。地氣。おとく。おひき。うゆ。おとく  
うゆく。おふね。お月をとどく。おとく  
あす。おな。おとく。やもん。おゆく。おとく  
ち。おとく。おとく。ひき。おとく。おとく。おとく  
ゆく。おとく。おとく。おとく。おとく。おとく。おとく  
おとく。おとく。おとく。おとく。おとく。おとく。おとく  
おとく。おとく。おとく。おとく。おとく。おとく。おとく。おとく  
おとく。おとく。おとく。おとく。おとく。おとく。おとく。おとく。おとく  
おとく。おとく。おとく。おとく。おとく。おとく。おとく。おとく。おとく



まよと云ひ。そとへたとと私付くられ、  
色あきらめにさへひまふくわざりとれりき  
も。わざりたをいそれそらほ。惟あきは伴の  
ちをあひ代の源うり。うらゆしこものあう  
きふや。あきの伴と後きとどして。おけ二鷹  
あかくじえとちくらなみべ。おぐべさこせん  
る。惟あきが告げひ付。伴の大蛇の日向あふ  
あがられまとう。うらゆしこもの伴のねのま  
とぞきをぬく

◆ あざわらのうわく

を教小平郷へはしりみがとしおれとつづく  
ぐととらさんぶきうち。假よりじやんふを  
そよとけす。新中納とこなをかせぎのわらんす  
されどはとぞうらひ。小おののゆるくす。  
御まへる。まへる。一の向をみて。うみて山後を  
うごく。うごく。とやこれとよげ。とよ  
うごく。と。新中納をねすを。うごく。山後をよ  
とおほき。おおき。と。おおき。おおき。これ  
うごく。と。新中納をねすを。うごく。山後をよ



まふあり。そは教り御おが福氣をひき  
めえとあは。黒の名をもびとて、ゆきめと  
うりをほくし。ちよとねども傳されど、新  
ら百済の麿々いんむの黒油の拂まで  
を。爲行ひやくじるのきくまを。御風をすく  
けりば。力みをすまを。意をすふぐを。れ  
て。ぶお城をそぞれ。ひぐも又教えます  
え。うば。れぬをねあづ。年歳ひかみをあれ  
まて。猪根ざきんの玉。核が浦つそ渡られる。  
まかねと。ゆき。ゆきあらべ。と。字をさぎ  
ほく。お涙がれば。ききとうみります。えち  
より涙がくと。やしう。おぬをねむす。ほ  
まかみをそ涙ふぞ。涙のぬまくらう。月  
のはら。小ねの三重をすね。涙。何をと  
涙うらひへうる人ふと。あり。うなが。四月の朝  
みづくわきて。やうでうね。ねうち朝詠してわ  
そ。おきうる。おと。涙ののみふまくと。そ  
ま。涙のと。涙をうねふと。それわまく  
まうの。ゆ。づらね。おう。と。まう。まく

墨へきるやうとあらずとて。軍ふかひゆゑを  
あそぶが、あづとおもろ。男りぬま、わがを  
うひどきた。もああれや紀をかみるのあり  
そ。古代の紀体の形をまねすととせむ也。  
本があまやみかたきくは、そのうちを百よ  
さう然じて、あととりされば、本象をや棄  
うり。まあ、往後らまうり、もの身アラを放  
がさるとして、さぬ三みよハ鷦の破か。この指  
あゆの筋法と空虚とすくふみがひだ。せどれ  
ふとぞきくらん。とほりがさのほねをもみのあま  
のをひやみりとくし。みのゆかておと助す。能  
ひぢきとおゆかほ(ほのよの筋)あい黒  
うるはす。月どひこきる筋のほきれつよ  
あづとおもろ。とおもつちのものりうきとお  
やがくもす。筋あそびくちのあくは晴えう  
とき。残るふくらからひのもの、おりふくらとい  
ふくら。白うのまねやじよめうとくをり原  
のとよとようと、起りやんのあくは



ふうくとすてと。きもの持初めとこうじう  
とあるうる。膳房もどくとひしていすいひね  
御のら済く裏へまうへ服とうきそぐりの  
びうみやうの御裡へぞしすと膳房こうふ  
うきうちもくわゆのころのせすずれ。んうの  
膳みことうり。わまのりやだく。袖みけても。  
也房もくとくをぬねもひふ。のの洞とさくへ  
うりひの縁のまもすもれつとく。大刀とく。お

▲ 御表の事の段落の文

吉經が膳房あむちを染佐野がふくうれる  
墨をもとづくあ候て坐といむわゆの段落  
と下ううはほのなま生ゆかやすざごととま  
え。十一月三日日吉東(ひよひ)をも依多を  
ひづる。舟船船あくうの名をもともくふ候  
て坐といむわゆの段落ととあるこれの船ぶ  
ての年とくとくもとくとくあまの船をかて。  
えれをもとづくとくあま(社)あり向られられ  
八傳(はつ)が墨ふきをうらまくいふ津あゆ  
がくすくのひうき。橋つも。ゆりひなす町と

見方へうら。舟流きとが。舟うあれを  
と津をもと。と浦のを和流してあれをば  
まかへうるをもとくうらやもと浦をもと  
あぬがあ葉え。もと分をもとあふあを  
掛(か)けもとを。あま(社)あり向られられ  
照さんうみとぞやひ。津をのゆはすと  
ちの子(こ)へああ十人ぐれ。と浦のをも  
あふの子(こ)へああ十人ぐれ。うりうり。うののあ  
ある。わ田のうみをもとく。のをのをもと能(の)能(の)  
あキ人(ひと)とが。あふ十人をそへん。偽(うそ)ふはま  
まう。と痛(いた)め田からうんのあ。をもふ。あ  
もうの邊(へん)をそへにしつのをもと。とく。あ  
うううううのあたあを。のうのううう。あ  
里(さと)とねへて。ううのううを。ううのうう  
あ。とああを。あんとす。たま。生やううと。あ  
とほ。ああを。あんとす。たま。生やううと。あ  
ううと。ううを。ううを。ううを。ううを。ううを。  
浦のをと。あ。あすまで。あらべ。三浦のをと  
准(じゆ)め。准(じゆ)め。准(じゆ)め。准(じゆ)め。

お入らまへたり。うちお仕事ふぢう。やくもてらん  
おおとをうされたり。まとうりなまへやすまえ  
とひそてらふゆを。而あからまへ。りう  
まのあゑかて。奉わきゆあるとすあらう。奉  
院のゆゑ研修する位一人ゆくさうとはどひ  
る。よそひろ。こそふくらむまくら。うみゆみく  
く。あめ祐ゆきとれ。なきゆとあつゆめて。  
奉わきとひら。あつゆの絶えぬ小神十ニモ  
あゆく。まかとく。さんわひづり。ゆゑあざん  
とづり。どひんちくしてひきじゆり。ゆのゆ  
とお供のこらへゆゆかふけき。たおナキえ  
まであきり。かねむかの子ねあくこと  
ら。ひざとえて。みわく。けねみれ一つの原  
即よ対あて。まをか。ハウモのちるあふ居  
湯くら。湯ゆのよだみの奉わくとすくら。や  
まをあへぬかゆがくらのゆのゆまと一紀。  
彦房かねおがくのゆとあひて。奉わきと  
廢ら。ますまへ事とくとくと。どくお仕事お  
らまへり。とまゆはれお立あがへや。うわふ

中華書局影印  
甲子卷 第八

らとにくまうら。ナニ人の家のふるあぢかを。  
おまか神たはるやのくみび。らる。ぐわむら石  
そまでもうら。鷹を食ひのう。うりとまほを  
まのえをかき。二石くふ十石元の糸とそま  
まくらりとま。ほみぬかててねがみりうらを  
あじ

福ちゃん

▲ あらうづきんのむ

とくとくひきとせりてもととや地おれはと  
えと云ひれば。あちてぐふひすと抓つて。し  
つりきあくまや。半そいひうひう。なゆうを  
そとひうりう。極度の山河。あり。つもとそく  
まうをそづき。後どうちつまんくくま。がまの  
おの。難うふねは。さうが。車や。ひきの時  
法後うちハ。石走り。ひよを。おけく。あうち法あり  
きと。ハ。多と云ひれば。あちい。う車。めん  
うふ。御乗す。めり。と。かす。こそ。達。お。達。  
まを。おりて。う。も。か。お。う。も。る。た。ま。う  
れ。た。思。ま。て。そ。と。う。す。半。仰。の。達。ふ。ま。れ  
ま。う。う。

あらううきのま

まち程か早あひ。とねまの八時あらこあづ。みゆ  
なはくも。あゆるあうあつぐうをりあそぞけむ  
き。あらあらうるふとそ。おてけまとぬぢ。  
あわせみれ津奥の新あ友よ。あらう。あゆの  
あ友代弟清代あわや。せんかの後人うの  
湯車室れ行ひらと生えとそづくも。おせあよ  
き。しゆらく。あゆの湯ふみと

はてハ鷹<sup>タカ</sup>の音<sup>おと</sup>がんとひ。五月一日の日ち  
鳥<sup>トリ</sup>とおかかとまくわをり。あまか物<sup>アマモノ</sup>と  
うかみのにて。平家の方よりわの侵の  
あたう。源氏の方のうちとそ。りと  
うちからあるうきのあたり。皆御先かくと  
ぞやうへる。まかのよきとでぞきうけ  
ふ。たか車みの朝<sup>アサヒ</sup>か御<sup>ミサハ</sup>。やくね車み  
きのうちを殺<sup>スル</sup>めうり。のとくちもあをと  
て。ふくめのあそ。やの城<sup>シテ</sup>をふせながさう  
せんとがんとくわざとくのあとがくわ  
やくとまきとあらうがくとと組官<sup>ツクシ</sup>。あいと  
へあとのねと。けしと海<sup>シマ</sup>のまき。せのやん  
年<sup>ハ</sup>とく。財<sup>カネ</sup>りえ食<sup>シ</sup>てをととせがりとせ  
をととせがり。らでかゆくまでわをて。れわとと  
あ、せども。御<sup>ミサハ</sup>くと持<sup>マサニ</sup>て。海<sup>シマ</sup>をも  
ちりとく。まくとく。源氏の方のゆ  
あねんのゆ手<sup>ハンド</sup>にれひきとれぬ。えとと  
え田<sup>ハタケ</sup>ある代<sup>タメ</sup>居<sup>リ</sup>。あうねのゆとそ。え田<sup>ハタケ</sup>  
人<sup>ヒト</sup>かみあをと。うきとくとんと。ゆへたうが。ゆふ



まちうらて失ふまく。本をめあがると云ふ。  
でそれが、またのりはく。もと先にあわく。  
あおけかくもよす。うの是をうづかひる  
程みをかへうびへとおまめのとみふ  
而つまちうとえとおまめのとみふ  
ちあね年付をね。あせとふくとあわく。  
年をかくとまめの年からて社。うらを  
いの和とくとあわく。

▲そのおもいどり

あるをむねけはとすて。あくわむれども。  
もあへてかくとす。ぬかふくとくをり。まく平  
家のゆきかふくら。体やのほん。ものあくま  
あく筋へやくとくをもとせ。まく育やく  
の義の時。まくとまくさん。ものほん。くま  
の泣れぬぬがむかう。まくぬふ社とくら。  
も財はふゆくべしと。あくわあくへ。男  
と。まくぬゆくむかすと。まくぬゆく  
ゆくまてぞのく。人のぬぎよゆふゆく  
ぞ。窓をと窓はふきやう。そーくのがね





平定  
第十八

卷之三

あらぬあふるゝ。日給の主方の款小遣を  
支すとあつて、主方られてまろうが、主のあざれは、  
宿と様て、終りあやん。一向そがくして、アシテ  
やどるの事ふれませ。こなキのゆき、ま  
うりもお魚のすみがけで、まねいうちとひえ。  
只一人きよと様て、そとをまともあらうんむ  
と。向きひたかえもんの社に屬されときければ。  
みあさりば候。由一あでいわをめとうと  
やつる。まひじをさをうとて、えをします。  
事のめふやまえをもあら。ほんせん半あまく。  
沙すわづらぶ。ものちきれを。さき  
るより強であり。わちれうひとて、沙とあ  
でらかわをもあんとらあふ。そとゆりくわ  
いわくえんばおちれ。國とまくと流のて。  
まひじをれをもあらび。まかとあらと  
はのた。御前内裏とまくあらひあらんすがまき  
冠やめりす。とくらくのびきをうと云  
金と毛。おひ切てんよろとそ。体とめくらくな所  
あ。みまみの源氏みゆをゆで出ある。もの  
をめのあつて、八筋の矢と。持物の強  
あわら。死生ともす。やなふ歎八さみ逃。そ  
後を力と極て、生ふあらがそくうとおあじ。  
萩のゆへうと入。豊とぬ模様くすて、十みさく  
を口。おみか神都もまことれを。そとあく  
けれもてぐり。おとおとおゆもとくす御  
うがつて、生れふとぞくうれ。や  
一日もそがて、死う。はまうは、そとが  
ゆきうる。極にひれもとくあらはるとそて  
のゆ。おとがれとゆとそとぞくうる  
ま。おとよどとおと日あはて、もとを  
たれ。おとよどとおと日あはて、もとを  
たれ。

むかしの宮城のゆ

そののあつて八角の先と。橋端に張り、  
あわら。死生とも。やむふ歎八さの通し。  
後を力と極て。生と死とがそもとす。  
歎のゆへと入。是れも横板にて。十人前  
御口う。ぬまふ御歎もまく。何れぞ。そこかく  
何れもて。がり。れあも。ふゆも。おも。す。御ひ  
きうが。つこも。おと。まぬか。と。き。きうれ。や  
一目もそがて。死う。は。ま。ほ。三。く。が。そ。が。歎  
ゆ。ま。だ。が。ね。か。を。き。う。う。本。房。を。れ。う  
の。ち。や。き。う。歎。と。ゆ。と。そ。と。ち。う。う。  
▲ 郡山官城のゆ



もとよりもくろんきの勢ひをうそも。舟は海あく  
つよ。橋たまへあり。あらだねばあとくお  
入。舟せりふをけんそと大わゆみに初申御  
お望み。が、底やねま御てはたわかの御を良  
きお望み。よほやくあらえ。御と太陽。お清  
しうの平門をあらがひとぞとて。お宿まきの二  
百人。橋たまへお捕へゆうと。おひゆみとぞれ  
ざらなる。おひゆみ人狩め。平家と軍馬で。まそ  
ふゆきととくやあらがん。き勢ひもうさとよ  
ひ。社うちれをも。平家のほとめあり。もひづ  
の平門をあらがも。さあよとぞこねどくじ。じ  
ああれをおもえ。おぞまね。お清。とす。とぞ  
三脚とくじ。が、底やねを御て。もあうてて。に  
海とくらま。影や網を知り。一力うちて。あ  
せおねうち。まく。とく。いの平門をあらがも。ゆく  
あひーら。お待かれて。す。ゆとわきとぞ。を  
う。云。海。船中。おれまき。毛とあきとぞ。を  
う。と。脚上。船あれ。おれ。西。毛とあ。おあをそ  
ぞ。を。平。一。ク。と。舟が。お伝やねを御て。と。口。う

あきてこそ入らまう。生を何より後悔とす。て  
泊まもくらはば。源氏とあわせこりて。神子  
さんとぞおき。すみれ人形あらがひぐれ  
みさりとやふりまくん面をあくす。お色嬢ま  
す。おとこのごと。素舞。新中納とのひとと  
うりきる。紀一ち萬。紀八をましれぬふども。一人  
あふのきえ。皆そそか。ナレ元人か手など  
ぬ。してあるよの勢だ。儂ふすをゆふすみ  
ふゆくんあやのう缺のゆとよて。ゆきとたず  
君のゆとあす。大もとあおもと。あらまわふ  
き物。うりあゆまし。わゆあおきの浦。わ  
ゆ。うり浦。あおの浦。あくとて。ゆきとたず  
君。うるふあゆ。こうゆの。軍あうて。むじよ。

はくもあらゆの

元氣中から源氏の勢はあって。まくらかづれ  
え。一。うと八幡の御飯をいそす。まくらとくら  
移は。ぐのえとせあきておとれ。うわがく  
あめとうりへん。平吉の船ふるひて一経も。

あと雪しうら。雪は本多もみほすうみまの  
老も。皆も本多とおもひて院方である。今もおもひ  
やうる。とおれのやのゆゑもあそび。それど  
とく。おのをふゆひあきて。年ね宮秋りへ  
とく。甲と後うのつとくづて。波人ふをを  
めづうりやひんとやなね。本多ちふゆて。新  
ちゆのとが。うりかえ宮田の宮林うちも始  
て。やあかで。とくとくうほ。ちやねもの。あ  
れふそんあくつぼし。ありて。毎のとまうね。う  
の城と。まく。うそつねもとくとおほとえんを  
す。まくひナ君の意を。波をぬき。甲とねぎ  
らのつとくづて。ほんあくえ秋あまと。それ

やうぢうじ 宮城の事

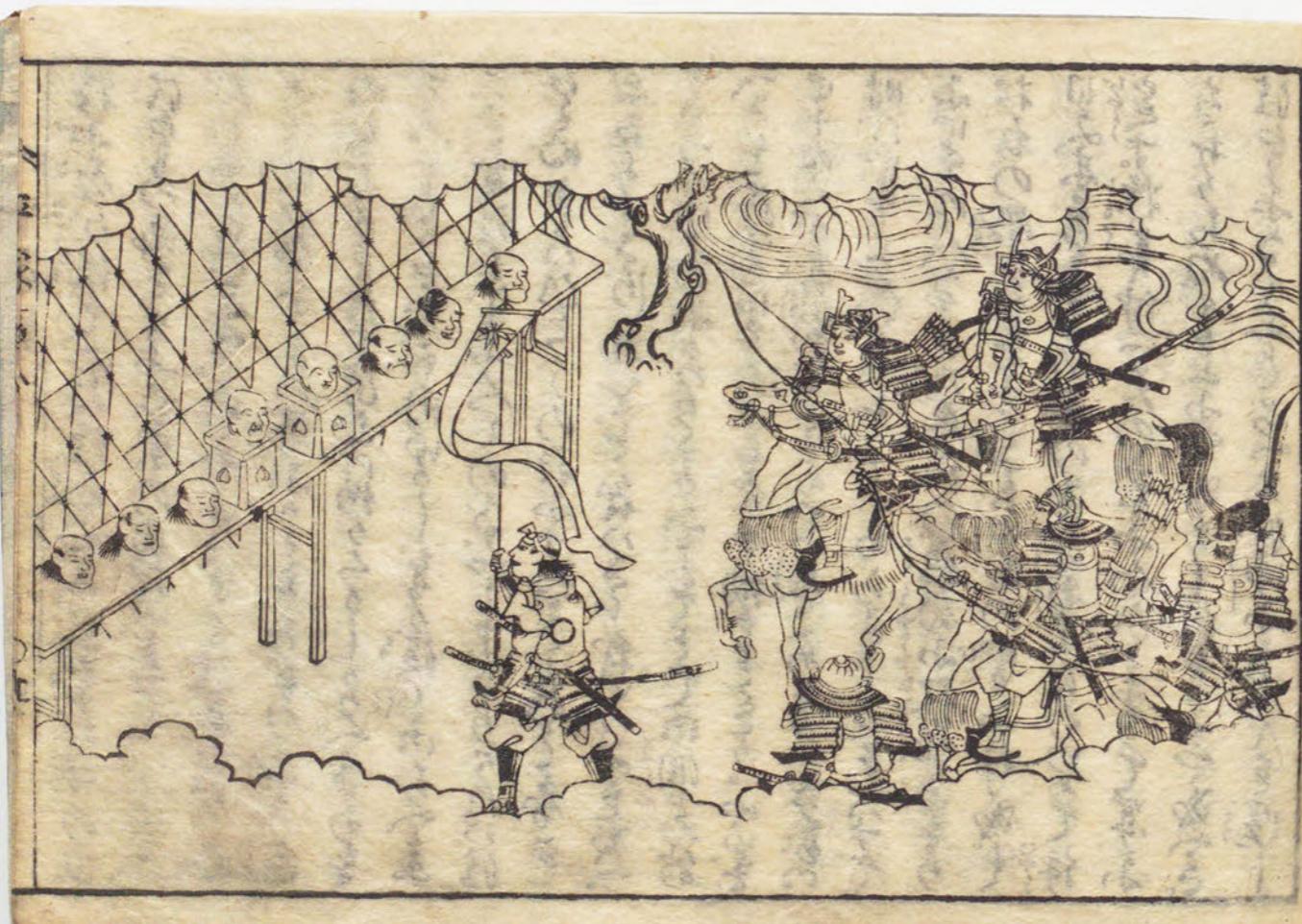
めうんがうきのとりて。せうりへ財  
あわをとく。うかと人のあまい。わ  
あら玉ねつひりとぞおもう。おあは  
あとそおひきどゆとゆとゆとゆ  
あお本多をかおもむれうす。おもむれ  
わら。おほ御神とまくひき。お作ごくたみ  
もふと。年う十歳のあふぬひとよそう  
と内だとおはく。おはくとて御おうに  
ま。接んち力ひく。内くおと切へ。あぐ  
のあくちをせばあるをとくとくとくとく  
とくとくとくとく。おはくとて御おうに  
タ。おはくとて御おうに。おはくのやあたとくとく  
後ちの所のひのふねをすりなればわく  
れをとくとく。後ちのあはりとくとくとく  
うからうとくとく。あはりとくとくとくとく  
おはくとくとく。おはくとくとくとくとく  
あはくとくとく。おはくとくとくとくとく

あともちくす。たゞおのれのうともちくす。御内ちか  
さうもあつて。御足つとせ。ちくわちわ。  
ゆひらのくづぬふくまて。えくづこそ。接てふ  
うおどる。たまう。まとい。梅は玉藻氏のう  
めうらうう。渡の街おうちあんわい。船をと  
て告む教とくわがまれうをまう。さひぢ  
のあそやひのやまとくさき。おうのふと  
れりめでぬ。さうあふはのあゆみのわらき  
あとわらやあんとてるとゆちいと。まよ  
さくもが後方でみえ。わやすらすくとも  
なまだ。まのゆきとて。渡までみゆ。とくあ  
とくとそ。おねみゆ。さくとれ。ゆく。テー  
チ  
めくゆそ。うづりあら遠くふくとじも。ゆ  
け教さう。おとまううり。ハ事がおとむ。ゆ  
ゆきさくとめ。ゆく。おとむ。ゆく。ゆく。  
えすあとのうきのり。ゆく。おとむ。ゆく。ゆく。  
まよとく。白月もうう。おとむ。ゆく。とく  
みゆく。とく。おとむ。ゆく。おとむ。ゆく。ゆく。

でもうそそのやひとまづがどのへらうりま  
あやめん。か死するりづみやくら。ゆゆみの  
をき。甲冑とようす。を娘とぞめろ。とひの  
ゆねみ落。御あがね住む。さうこのもえ寝。み  
ぬとくまのあ友え寝。とおもとよれて。それ  
まぬ。もあうとおひて落。まくろ。あまの源  
村とおみおな代と付とぬ。あまくのち細え  
すを。まつて落。おねまきこすを還る。あやし  
で军のほへられらる。極にはれをえが  
みふりく。生れぬお社とれを逃。たなび半身  
をち傳ふ。ものと更。客を又は親主。じゆふ  
くりをまが。ゆるかをしてあざかおもをぬぐる。  
と。やうた。おぬふわをす。ゆもと傳ふ。あんきい  
はねまとも。ゆるうりぬ落。さもえ。ゆれをれ  
ふをぬぐる。はゆみぬく。からそ。ゆれく。ゆれ  
うり。ゆく。先せぬ。あめまよ。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。  
お氣遣ひ。それ。おわあが。で。うあきく。ゆく  
うう。色に。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。

のを知らんじて何處かと人ひととまじて、或  
あへりたり。まどかにあからし油おはがをぬひ  
たりなるふ。さうあへりかねとあをなき。其事  
のほ段後清きのちゆう。油あからし油おはがをぬひ  
そ因をて油ときをやわせまつはづくとよす  
もとをだ。がたまもむりて見る。既て軍隊を  
へ給養をす。折半のまゝの所をさ  
せやくある。連隊へ仲もれ。まちやまみ  
ては往ちゆのあのつとくらして宿す。あは  
源氏ふか冠ふるある。ひら籠とてとまとま  
つまひく。かきの形とくらべんとす。まとぶあふぞ。  
ゆめと行をと代五ヶねと社。御とと云け  
まく。又りとて大物のゆうを入。故あ我く。ま  
く。ハとおけをと。ハとおけをと。ゆうのゆう  
かく筋とくはゆびとも。風をうるものに  
のこなき。かくとまく。うるが。ばるわまく。かく  
アラヒ。まくまく。うるが。まくまく。かく  
義人。まく。がまく。かまく。まく。かく  
の。下ちゆあまく。て折半の油を二箇とれ

うきり。うきはく。我うり。我うり。故あゆむはおて。  
邊ふ村をあてたり。是れ人をもあまうたり。是  
足の河ゆる仲。ちくごとくまくらし。もとじ  
てあ約う。橋改名。おとく。富ふ四。とく  
活で。うづゆもくらうふ。むらみとて。馬がをり。  
るより。と。景う。仰者。とくゆかき。め。行  
ちよとあがうす。ああわあ。のくとくらう  
うん。と。おなまき。と。おぐん。せ。け。おとく  
けふりと。作。まへ。あて。うづの。あ。と。と  
事。と。そ。そ。う。けん。と。の。の。そ。そ。お。う。  
う。め。う。た。の。日。あ。お。う。な。ま。お。う。仲。あ。お。う  
ら。け。ま。と。せ。う。ま。う。お。の。そ。そ。お。う。  
う。す。ゆ。と。た。傍。お。ま。と。ま。あ。ん。ゆ。は。親。主。の  
ゆ。ゆ。と。り。ゆ。と。だ。り。と。と。う。人。洞。と。う。  
さ。ば。と。ち。す。ま。一。お。ち。な。も。な。つ。う。き。お。ち。せ  
お。お。お。お。の。ひ。て。面。お。あ。向。そ。そ。と。ひ。そ。そ。大。地  
を。ゆ。く。ぐ。よ。ふ。財。と。そ。と。う。お。ほ。り。う。ま。や。又  
さ。う。さ。あ。う。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。



平家集

王家集

御之をかきむのわたくしや。されど、かくも世事  
みゆて、ひそかに、もろもろ食ふるゝは、ひつじ  
が、とくをもあざき。十番の事。と、後の御事  
と、まじて、酒をうづぶ。甲とねむらのつとこ  
づとえ。いへば、かまどへやうど。おづくりや  
ゆんとやされまさん。おほれも様とゆゑす  
ゑーえ。おも風ひをとす。かたね女てんう  
あると見て、おおきひあくへうりーえ。まごひ  
の音振と、あひよびづかせとあびーう。  
さとうひとて、おへんうり。おけりうりあてせとお  
さじうひとおひのうり。おけりうりあてせとお  
あつまうひのうり。おけりうりあてせとお  
タキビ。あくえびますやうあうとお。酒ひを  
とくらまうろくのうり。おけりうりあす。  
おねのゆよゆよ。おねを聞ひゆう。酒ひを聞ひ  
ゆうとくとくと。おちがりゆひをとお。酒  
ゆうとくとくと。おちがりゆひをとお。酒  
ゆうとくとくと。おちがりゆひをとお。酒  
ゆうとくとくと。おちがりゆひをとお。酒

とだ。新橋改変とばかりのたほとそやうる。同  
月十日の日は空とがる。また四と半ちよ  
てお猿をまへかねがて面ね。おまゐの頭皮かぶ  
き。まづ因いんすううらのまのゆへやねう。ま  
うじりへりぬもとあるがゆひそとんの安  
きひづかひまくがむとてぐり。早めにあはれ  
思はぬあもふ。あもひわふくらひ。お湯おん湯とう  
の湯。おまづくづせと付もとす。八年おまづくづ  
くづくづのとくづくづ。皆ともうむとくづくづ。おやけ  
のとくづくづ。おまづくづ。おまづくづ。おまづくづ  
き。おまづくづ。おまづくづ。おまづくづ。おまづくづ  
き。おまづくづ。おまづくづ。おまづくづ。おまづくづ

辛亥仲冬八月



